

図書館と著作権と資料の複写

(その11)

今まで図書館の印刷資料の複写という観点で、著作権について触れてきましたが、今回は少し視点を変えて、インターネット上で入手できる楽譜、いわゆるデジタル楽譜の利用についてご紹介します。

まず、当館で契約している有料の楽譜オンラインデータベースです。

○Classical Scores Library (Alexander Street Press社)

<http://shmu.alexanderstreet.com/>

最近ではインターネット上でいろいろな電子情報にアクセスすることができます。当館でもCDやDVDなどの資料の他に音楽・映像配信サービスの契約を行い、利用者への提供を行っています。Naxos Music Library、Naxos Video Library (Naxos Library社)、Classical Music Library、Opera in video, Dance in video (Alexander Street Press社)などです。これらは館内端末(自由閲覧室、AV多目的室)、あるいは本学の学生・教職員であれば自宅等の学外からもアクセス可能となっています。Classical Scores Library (以下CSL)は、参考図書室の情報端末、また音楽・映像配信サービスと同様に自宅等の学外からのアクセスも可能です。

CSLの楽譜データベースはVolume 1、Volume 2に分かれています。現在、Volume 1では25,000冊、約44万ページ、Volume 2では1,300冊、約4万ページが提供されています。2013年度中には20万ページを増加する予定となっており、最終的には60万ページの楽譜にアクセスできるようになります。

Volume 1では、Boosey & Hawkes、A-R Edition、Universal Edition、Faber Music、Edition Peters Groupなどから出版されている楽譜が収録されています。当館でも多くの楽譜を所蔵している出版社ばかりです。また、100冊のオペラの楽譜とリブレットのコレクション(Barry S. Brook Center's collection of the 17th and 18th centuries)を含め、ルネサンスから21世紀までの作品が提供されています。

Volume 2では、世界中の現代作曲家の自費出版楽譜や一般には知られていない作曲家の校訂版などが含まれています。

図書館の所蔵資料を複写する場合も著作権法による制限がありましたが、この楽譜データベースの利用についても「Copyright Notice」が記載されていますので、利用前に目を通しておく必要があります。

This document may be used for informational purposes only.

This document may only be used for no-commercial purposes.

など、オンラインデータベースを利用するための注意書き(制限)です。

CSLの楽譜データベースには、著作権がまだある(in-copyright)、及びパブリックドメイン(public domain)の楽譜が電子化されていますが、個人での利用、商用目的ではない場合でのみ使用することができる、とされ、著作権法に則った公正な利用が求められています。

楽譜はpdfファイルでダウンロードすることができ、印刷も可能ですが、これらの楽譜の画像データの著作権はデータベースの提供元であるAlexander Street Press社が所有しています。紙媒体での楽譜の複写では、作曲者・校訂者など著作(作品)に関わる関係者の著作権に留意する必要があります。楽譜データベースの場合は更に、楽譜の画像(images)にも著作権が発生していることに注意が必要です。

次に、インターネット上に無料で公開されているデジタル楽譜です。

○NMA Online Neue Mozart-Ausgabe : Digitized Version

<http://dme.mozarteum.at/DME/nma/start.php?l=3>

当館でも印刷楽譜として所蔵している「新モーツァルト全集」のデジタル楽譜版です。ホームページはドイツ語ですが、NMA Onlineのページは、英語/日本語の2か国に翻訳されています。利用に際しては利用の制限に同意することが求められています。日本語版の記載を以下に転記します。

国際モーツァルト財団とパッカード人文研究所が共同で運営するこのウェブサイトは、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトの音楽作品を個人的、学術的、あるいは教育目的で広く容易に入手できるよう一般公開するものです。それが商用であろうとなかろうと、このウェブサイトの内容を大量にダウンロードしたり、再利用したりすることは禁じられています。私は、このウェブサイトを個人的な研究のために限定して用いること、コピーをする場合には著作権法上の「公正利用」原則に基づく、個人利用目的以外には作成しないことに同意します。個人利用目的は、ライセンス合意に定義されています。

私は、このウェブサイトを私の研究のために限定して用いること、また著作権法上の「公正利用」原則にしたがって、私個人が使うもの以外のコピーを作成しないことに同意します。

はい

いいえ

デジタル版には、国際モーツァルト財団がモーツァルトゆかりの地、アウクスブルク、ザルツブルクそしてウィーンの市当局と協力して編集した新モーツァルト全集の楽譜および注釈をそっくり掲載しています。印刷版はベーレンライター社から出版されています（www.mozart-portal.deおよびwww.baerenreiter.com）。原典資料、特に補遺版の図版の転載は、制限されています。

このように、どちらの楽譜データベースも紙媒体の楽譜と同様、著作権を考慮しなければならないことは同じです。

データベース使用のライセンスは、前者(CSL)は有料で提供されているため、図書館が契約者になっています。そのため、図書館を経由してアクセスすることになり、もしその利用に不正なアクセスがあった場合には、契約を解除されることとなります。

後者(NMA)は無料で提供されているため、使用する個人が契約者です。ライセンスに「はい」を回答することで、ライセンスに合意したことになります。

次回は、CSLでも提供されているパブリックドメイン(public domain)の楽譜について、また、データベース利用のためのライセンス(license/licence)の意味と利用についての留意点に更に触れていきたいと思います。

(mj)